

安全はもちろん、漁獲はアップ、コストはダウン ～最新の海上通信技術を紹介～

近年の漁業無線は、人工衛星を利用した通信を活用した漁場探査を行うなど、最新技術の導入が進んでいます。そこで、北陸情報通信協議会では北陸総合通信局と共催で、北陸地域における海上通信システムの利用拡大を図ることを目的に「海上通信の最新技術利用に関する講演会」を7月9日(木)、参加者約60名をお迎えして金沢広坂合同庁舎1階大会議室において開催しました。



総合通信基盤局
衛星移動通信課長
新井 孝雄氏講演

はじめに、総合通信基盤局 電波部 衛星移動通信課長 新井 孝雄 氏が、「海上無線通信の動向と今後の展望」と題し、海上無線通信の利用実態、周波数帯毎の使用状況から近未来の通信システム、そして国際周波数調整を含めた海上通信におけるデジタル技術やブロードバンド化について解説を行いました。

続いて、『演題：「宇宙利用漁業と今後の展望 ～宇宙から深海の魚を発見～」』として、一般社団法人 漁業情報サービスセンター 専務理事 爲石 日出生 氏から、漁師さん自ら人工衛星を活用し海水温を測定、そのデータを基に良好な漁場を予測する試みについての解説がありました。これにより、良好な漁場を予測できるだけでなく、潮流を利用した航行が可能となり、燃油の節約にも一役買ったとの説明がありました。

最後に、短波無線のデジタル化技術に関する取組みについて、富士通株式会社 公共・地域営業グループ 地域新ビジネス推進統括部 海洋ビジネス推進室 アシスタントマネージャー 小葉松 知行 氏及び SI 技術本部 システム技術統括部 マネージング IT アーキテクト 河野 太基 氏から、実証実験で得られた短波帯のデジタル伝送技術の課題と方向性について、貴重なお話を聞かせていただきました。

参加された方々には、人工衛星の利用やデジタル化技術の導入により、安全・安心はもちろんのこと、それらによって漁獲アップやコスト削減にもつながる漁業無線の今後について展望していただきました。



一般社団法人
漁業情報サービスセンター
専務理事 爲石 日出生 氏講演



富士通株式会社
アシスタントマネージャー
小葉松 知行 氏



富士通株式会社
マネージング IT アーキテクト
河野 太基氏講演



北陸総合通信局長
星 克明あいさつ